

支部だより

兩毛支部

第一回總會（創立總會）昭和二年十一月十二日開催

伊香保温泉石坂旅館に於て開催

當時會員四十九名

出席者會員

二十七名

群馬縣

二十五名

栃木縣

二名

會員外出席者

石坂寅二郎君

梅澤波三郎君

來賓者

針塚校長閣下

蒲生教授

總會終了後一泊翌日榛名山に登山す、校長先生の健脚につられ殆ど全員同行す榛名湖畔亭に晝食をしたため、即刻下山解散す。

第二回總會 昭和三年十月二十七日開催

磯部温泉磯部館に於て開催す。

當時會員

五十名

出席者會員

二十一名

來賓者

浦生教授

森山助教授

翌日妙義登山し紅葉狩に時を忘れ夕刻解散す。

同じ學校を出たといふ單なる同窓會意識を超越したい。結び付けて居るものは友情でありたい。魂と魂と相觸れる友情的意識はとりも直さず各自の本質的向上意識への興奮となる。本質的な自己省察への精進は又逆に深い友情の契となる。近畿支部員が持つイデオロギーの梗概である。

支部の今日ある事の多くを負つた小見氏が支那へ行つた。同氏の残して行つた對人的稠情の中に育まれて來た支部は益々固いケルンを包含したグループを形造つて居る。

年に二回の總會と今年から初めた支部報と隨時隨所に開かれる部員會合に於ける吾等の叫びの如何に進出的である事よ。多くの進んだ意見は兎角過激視され易いものであるが本質的な考へ方は多くの場合舊套のカテゴリーを脱つして居る。同窓會SOLLLENに對して凶襲的形式を脱つした考へを持ちたい。(K・K生)

山陽支部

瀬戸内海の魚を味はつて他所の魚は食べられぬと食道樂は言ふ。我が山陽支部はその瀬戸内海にすつかり面してゐるし支部長の小川君は奥村と言ふ海から五、六里も山奥の産で而も其處に住みながら海が大變好き、海釣りにかけては女人はだしの腕前である。岡山縣幹事の藤原君も川釣りは相當の天狗だ。廣嶋縣の幹事を承つてゐる小生も近年は海濱に近く居住してゐる爲め釣りに出る機會が多く若干の自信もあると言ふわけで、幹事會の席上皆んなが水の禮讚者と言ふところから今年の第二回山陽支部總會は神武帝御東征の砌、軍を休めさせ給ひし「吉備高嶋の宮」の遺蹟である岡山縣小田郡笠岡港の伏源旅館で開催することになつた。

時は昭和三年十月廿七日午後三時、今春母校から來任した佐瀬君が一番乗りだ。續いて福岡縣二日市の山十製糸から福

山工場長に榮轉した小山君が来る、次の上り列車では廣嶋の西村君、下り列車では藤原君、中嶋君小嶋君小林君等が来る、そうして集つた者は結局左記十名である。

(岡山縣) 藤原卓郎君 (蠶二) 小林輝一君 (蠶四) 中嶋靜太郎君 (蠶五) 小嶋杉門君 (蠶八) 宮下義三郎君 (糸十四)

(廣島縣) 小川保君 (蠶二) 西村敬之助君 (蠶二) 小山久一君 (糸四) 佐瀬旭君 (蠶六) 土岡光郎君 (蠶七)

尙當日不時の都合で參會出來ず祝詞祝電を寄せられた方は鹽見豊一君 (蠶四) 友重誠三君 (糸五) 奥村好一君 (糸八) 米田俊雄君 (蠶十) 等であつた。

之等の諸君が久々で廿七日夜は大に交驛し、折柄の満月を利用して港の街の散策に昔語りも盡きぬものがあつた。斯くて伏源旅館の奥の間に一同枕を並べて往きし日の寄宿舎生活を思ひ出しながら寝物語りも亦なか／＼微に入り細を極めて一同大に若返へつた次第である。

× × × × ×

明くれば廿八日拭ふた様な秋晴れだ。午前七時一同は魚船二隻を仕立て、發動機船に曳かせて、昔、源平戦の頃激戦地であつた水島灘に進出し神の嶋高嶋、のあたりを過ぎて北木嶋と白石嶋の間に漸く到着したのは彼此九時過ぎであつたこゝで釣り糸を垂れる。信州産の小山君、宮下君等は海釣りははじめてらしい。然しよく釣れた。津山町在住の小林君あたりが比較的不成績。鯛の二才もの——海賊——べら——鱈——めば子——ふぐ——章魚等獲物は色々だ。

やがて一同岩ばかりの小島に上陸、こゝで兼て準備して來た山海の珍味や今釣り上げたばかりの鮮魚を料理して大にメートルを擧げる。詩を吟ずる。歌を唄ふ。踊る。自由解放の天地だ。船頭等三人。ぼかんと見てゐるのみだ。

昨年の總會では針塚校長先生のお伴をして備南の形勝藪の港外で釣魚したが今年それが出來なかつたのは多少遺憾であつた。

この頃から秋の空は若干模様をかへた。風が出た。山國育ちの連中は多少船暈だ。

午後四時再び笠岡港に引き揚げて一度客舎に落付き一同萬歳を唱へお互の健康を祈り再會を期して解散したのは五時過ぎであつた。

X X X X

由來同窓會員は舊情を温ため、新しく加はる方々ともよく懇談理解する機會を作る意味に於て、一夜合宿、世俗を離れて、一同若き昔の寄宿舎時代にかへり、互に打開け話などしてこそ、眞の支部總會の目的に添ふのではあるまいかと思ふ。我が山陽支部は人數こそ少なけれ頗る和氣霽々だつた。(土岡生記)——三〇・三〇——

山 陰 支 部

唯今は十七名で何れも元氣に働いて居る。岩本市郎君と影浦年丸君が去つた後は、坂田正賢君と越智岩平君と岩田重左衛門君が來られたので再び新しくなつて來た。

今年の第二回大會には丁度母校から遠藤博士が嶋根縣に見えられるので、これを機會に大いにメートルを擧げて、酔つた元氣で寄せ書きの一ツも本部に送つてアツト言はせる積りだつたが、集るものが少いので中止の止むなきに至つた。何處の支部もこんな状態か如何かは知らないが、却々集りにくいものらしい、大体支部そのものゝ範圍が廣い感がある。と云つてこれを狭くすれば會員が尠くなるので司會者は相當苦心を要することと思ふ。こんな理であるから従つて、第二回大會は中止して端書に依つて代議員選舉及會費の徴收をやつてゐる様な次第である。

山陰は恵まれない土地である、内地の背中にあつて、汽車は山の中を眞黒になつてくゞり、一寸出るにも拾時間や拾五時間乗らなければ表日本の方へ出られない惨めな處である。早い話が自縣の端から端まで乗る時間があれば東京大阪間を悠々乗れると云ふ位だから推して知る可しだ。

次は山陰には雨が多い、雪も降る、一年中所謂氣象學で快晴と云ふ日は十四日間だけだ。それは測候所の統計で明である。それ故私等腰辨連は何時もゴムの長靴と下駄は用意して置かねばならぬ、鳥取市で驚くことは下駄屋と傘屋の多い

ことでも想像がつく。だから山陰には名士が来ない。新聞に名士が来ると載つてゐると思へば、東京あたりでは裏長屋に棲んで居る高等官五等位の所だ。でも講演などは聞きに行かないと時代後れがするからと思つて、雨の日などに出掛ける。見ると場が溢れる盛況だ、ドウ見ても裏と表とで我日本に於ても一世紀位の隔世の感があると思ふ。

でも山陰はそんなに悪い處許りではない。第一海岸線が長いから海に恵まれてゐる、信州の學校で鯉コクを食つたとき生きた魚を煮て食べたと言つて下宿のお婆さんに話してやつたことがあるそれは昔の夢、今ではピン／＼して居るものが食卓の上を跳つてゐる。山猿が、今では海水に這入つてビシヤ／＼遊びでゐる。蠶に縁のあるものは海などには恵まれないと思つたが、我山陰に勤めてゐる十七名のもは、全部海岸から一里以内のもだ。子供等を連れて海岸の岩で酒を飲みながら、釣魚して、鯛の三百匁位のもでも引き上げた時の味は、到底生魚に縁のないものには想像出来ないね！丁度嬰兒のない人に嬰兒の可愛さを話す様なものだからよして於かう。

會員は大体若者揃ひ、製絲養蠶何れも半々位の處、現在の製絲はドエライ儲けで鼻が高い。儲けが多い時は上役に酷使され、尠ないときは睨まれるとコボして居るが、それでも現在の様に毎日市況がピン／＼嵩つて居つては働くにも働甲斐がある。せめてポータスの袋だけでも重くなる様にと祈つて居る。

蠶糸業關係のものには能く飲むと言ふ。余り飲みもすまいが然し飲む機會が多いには驚く。ヤレ何會だ、今度は協調だとか言つて能く引張り出される。だがまだ／＼そんなに心配しなくも良い、山男、即ち山林方面は結構やる／＼。山へ登つては、山男を相手に、里へ降つては松茸狩りだとか蠶糸以上だ。けれども彼等はその機會が尠くて飲む量が多いのだ。給桑方面からこれを言ふと前者は、回數が多くて量が尠ないが後者は全芽育の様に回數が少なくて量が多い、衛生的から云へば前者の方がまだよいかも知れぬ。會員の中でも岩本君が愛媛縣へ行かれたから酒豪もない様だが、体に相當して田中泰二君などは先づ一枚目の方だらう。學者方面は兎も角、矢張り飲む様な者が仕事をする様だ。殊に獎勵や指導者に當つてゐる人などは先づ盃の持ち工合から違つてゐる。曾つて或る會合（九州での話）の時料亭から歸へり

に街の中を立小便しながら十五分間も歩いたと云ふ、取締所長があつたそうだが、話半分聞いても大したものだ。山陰もこれからは雪だ。雪が降ると云つても信州の様に降つた雪が凍つて迂る様なことはない。降つても凍ることがないから大根オロシの様にズル／＼してゐる。一年中でも氷が張る様なことは滅多にない、そして見ると東北より暖いかも知れない。

第二回大會でもあつたらまだ／＼書くこともあるだらうし又書かうとも思つてゐたがそんな状態であつた爲めこの位ゐにして置く。ホンノ申譯的にね……。(小野生)

山形支部

月山鳥海山の秀嶺廣野を貫通する最上の清流、こうした環境にあつて山形縣蠶糸業の活舞臺に登場し得る我等は幸福だ。支部會員ノて十八名和氣霽々の内に與へられた職分に向つて精進して居る以下少し許り支部の近況を御知らせしやう

支部總會

曰く君臣の愛曰く父子の愛曰く何々の愛……。凡そ世に愛程純で然かも美しいものが又とあらうか、吾等同窓生のみが持つ母校愛之は月山の秀峰や最上川の清流が地上に姿を失はぬ限り恐らくは永遠不滅のものである。假令其住居が上田の母校を離れ境遇が各々相異れ共此母校愛のみは何等異なる處はない否境遇が母校在學當時に比し關係が薄くなればなる程此母校愛は猛烈に胸中に湧き立つのを覺える。彼の砂漠を横切る旅人が「オアシス」を見て狂喜する如く艱難なる開拓の使命に惱める者と雖も一度此母校愛の懷に抱かれる時忽ちに其愛想を忘れて人生の戦場に馳せ參することが出来やう、即此母校愛を涵養し淘治し發揚し小にしては縣の開發を謀り大にしては國家社會の發展を企畫することは我等が蠶專同窓生としての義務であり又一面からは愉快な権利の行使と云はねばならぬ。

母校の櫻花「サイレン」の聲太郎山の鈴蘭千曲の清流淺間の噴煙總てが我等思ひ出の種ならざるは無い我等同窓生のみ持つこうした思ひ出を語らう睦み合ふ旁々母校同窓會の代議員派遣方に就ても是非集合の必要を感じて昭和二年秋風

立初むる某日縣官舎古山宗八氏宅に創立第一回委員會を開き、森、今井、栗原、小山田、小口、井上、岩瀬の諸氏參會先づ支部規則草稿を制定し隔意なき意見の交換の末十月十八日時恰も山形市に全國産業博覽會の開催せらるゝを期とし本會より森山幹事の臨席を乞ひ山形市嘯月亭に第一回總會を開催した。會するもの森、今井、古山、高尾、山本、近藤、栗原、小山田、小口、多勢(龜)、井上、岩瀬の諸氏、午前中には一同産業博覽會の見物、十二時より會に移り森山幹事より本會各支部の状況を聴き古山氏より本會開催に至れる経過の報告あり、後森氏議長席に就き支部規則の協議に移り議論百出支部規則を制定した後森氏を支部長に滿場一致にて推薦し第一回代議員には又同氏を煩すことになり此處に上田蠶專同窓會山形支部が生れたのである。

右終つて記念撮影を爲し懇親會に移り安齋に及んで五君の徳利踊り君のすとゝん躍り等各氏の隱藝續出痛飲恣にし舊を語り新を談じ打ち寛ぎ談笑時の移るを知らず、一同觀を盡して思ひ思ひに解散したのであつた、當日は縣南縣北の遠方より會員十八名中十二名の出席を得た、

第二回總會は昭和三年九月二十八日本支部事務所たる東置賜郡宮内町縣立農事試驗場置賜分場に開催した地元の森仲島兩氏の配慮に依り午後三時集合會するもの森支部長を始め古山・栗原・武田・小山田・小口・井上・岩瀬・仲嶋の諸氏、今年は折悪しく晩秋期の購備最盛期に當り製糸關係者の出席が無かつたのは返す返すも遺憾とする處である、午後三時開會森氏議長席に就き協議會を開催諸件を協議し會半ばにして時間の都合上自動車にて東北の名湯赤湯温泉天の湯に至り會の延長として引續き協議した栽桑養蠶製種製糸の蠶糸各關係者を網羅せる我支部は會員一九となつて母校の爲め蠶糸業の發展を期せん事を申し合せ閉會したのであつた。

後一同別室にて懇親會を開催し和氣霽々の裡に山形名物のおばこ節新庄節、或は懐しの木曾節木曾踊伊那節等各余興に歡をつくし烏帽子山の稍色づける紅葉を眺め思ひくに入湯或は圍碁將碁等に時の移るを知らず一同雜魚寢正に母校で養蠶實習をやつた氣分に浸るとが出来たのであつた妻半ばにして栗原支部幹事は試験場生徒の關西旅行に出發長途の平

安を祈り送つた。

翌朝は昨夜の疲れは何處へやら起床入湯「酒なくて何の已は櫻かな」だ朝食に先き立ち又も山形の銘酒をあふり談笑裡に午前十一時閉會水入らずの會合は何のへだてもなく腹締を吐露し意見の交換を行ひ本會を益々意義あらしむ可く申し合せ歸途に就いたのであつた。

支部會員住所

- 森 干城 (蠶一) 地方農林技師山形縣立農事試驗場置賜分場長
- 今井又藏 (蠶一) 山形縣農林技師本縣蠶業取締所寒河江支所長
- 仙場秀次郎 (蠶一) 山形縣鶴岡市
- 土岐宣治 (糸一) 山形縣西村山郡川土居村羽前社製糸場
- 古山宗八 (蠶二) 地方農林技師山形縣蠶業試驗場栽桑部主任
- 山本 薫 (糸二) 片倉製糸株式會社兩羽製糸場
- 近藤正己 (蠶三) 山形縣立庄内農學校教諭
- 栗原 章 (蠶五) 山形縣農林技手縣蠶業試驗場勤務
- 小山田啓三 (蠶六) 山形縣農林技手縣蠶業試驗場勤務
- 武田豊太郎 (蠶八) 山形縣東村山郡成生村蠶種製造業
- 小口一枝 (蠶九) 山形縣農林技手蠶業取締所勤務
- 門田秀太郎 (蠶十) 山形縣東田川郡廣瀨村松岡養蠶場
- 林 十郎 (糸十一) 飽海郡松嶺町松岡製糸場
- 多勢龜二 (糸十二) 山形縣東置賜郡漆山村製糸家

井上兵一郎（蠶十二）山形縣農林技手縣蠶業試驗場勤務

岩瀬三郎（蠶十三）山形縣農林技手縣蠶業試驗場勤務

多勢義三（糸十三）山形縣東置賜郡漆山村製糸家

仲嶋幸藏（蠶十五）山形縣農林技手蠶業取締所赤湯支所勤務

以上・一九二八・一一・一一・岩瀬記

福島支部

同窓會新規則に依り、設置後當支部は滿一年を經過したが、別に報告すべき事業もなく、唯他支部會員諸兄の來訪ありたる位である。去る二月末當地に於て、農林省蠶業試驗場福嶋出張所管内の、蠶業技術官會議が開かれた際東奥支部高須、佐藤、宮城支部上野、山形支部古山の諸兄にお目にかゝり親しく各支部の状況を承り、且其の連絡を保つ上に好機會であつたが本年度以降は右會議開催の場所が管内各縣交替になり、一寸不便になつた。併し宮城支部の井出君日野君等には、度々會合の機を得てゐる。當支部會員にして他地方へ轉住された方は橋爪卓三君、西孝重君、栗田虎太郎君及び山岸松治君等である。特に山岸君には八年間本縣に在住せられ、支部發展の爲多大の助力を與へられし事を、茲に衷心感謝の意を表する次第である。次に當支部入會者には、望月榮作君、柿田實作君、西本朝平君、細田親二君、笠原正己君、宇治義春君で斯業發展の爲努力せられつゝある事は、陰ながら感謝してゐる。右入會者は本部發行の會員名簿並に會報第十七號に依り、又は面接したる方で此外何等通知のなき方で、洩れたものもあるかも知れぬが、今後は當支部區域内に在住又は他に轉住せらるゝ方は、福嶋縣立蠶業學校内田附卯一郎宛御通知を願ひ度す。(三・一〇・一九)

新潟支部

同窓會支部設置のことゝなり我新潟縣在住の同窓生も昨秋（昭和二年十一月）本縣長岡市常盤樓に於て創立總會を開催した

會員十七名にて當日參集せられしものは十四名の多數にて一同の多くは初對面なるに全く自他の差別なく楽しく語り支部規則の制定、役員代議員の選舉も和氣霽々の裡に終り引續き懇親會に移り舊情を温め各種の餘興に歡を盡した。かくして茲に新潟支部は生れたのであります。其の後別に異狀の催しもなし第二回總會は去る十一月三日最初の明治節の祝日を卜し本縣三條町に開催した出席會員十二名本部より倉澤理事が我が支部の爲めに特に御來會下されたことは會員一同深く感謝するところであつた午後四時開會各種議案を議決し次で倉澤理事より本部の狀況並に支部への御意見を承り終つて懇親會に移り越後美人を侍らして越後名物「佐渡おけさ」に「スキー節」さては記念の「撮影」よせがき」等に充分の歡を盡した。

會員の異動は杉井清藏君は神戸生糸株式會社に九合喜右衛門君は兵庫縣山陰蠶種會社に各轉任萩野上風君は病氣退會爲めに三名を失ひしは洵に遺憾なりしも新たに縣廳へ塚田卯平太君 片倉越後製絲場へ田口榮治君 高田農學校へ深谷正一君 蠶業取締所へ野口浩也君と川上與三郎君の元氣發洩たる五名を迎へこゝに同胞十九名に増加したるは當支部の爲め否新潟縣蠶糸業の爲め洵に喜ばしき次第であります、(三・一一・一一 丸山)

北 陸 支 部

我が北陸支部は昨年十月二日本部より林教授の御出張を得て創立總會を開催す。本年度總會は來る十一月四日本部より浦生教授の御出席を乞ひ山紫水明の山中温泉にて開催するの運びに至れり。當支部創立以來御多忙の身にも拘らず御盡力下された支部長高田茂重郎氏は去る七月初旬日本絹織株式會社原料課嶋田出張所に御榮轉相成り當支部として甚だ物淋しく感ぜられる。七月廿二日小松町に幹事會を招集し未熟憚越ながら小輩其の後を繼承せり。本年度の母校よりの來訪諸賢は七月中旬、岡教授は實習生の件を兼ね當地方に御出張あり、途中公私主要の所を御訪問下された。十月初旬森山助教は卒業生就職御斡旋の爲め御出張あり、十月十四日日本絹織株式會社創業十周年祝賀式には針塚校長、石倉教授御來臨あり福井地方を経て御歸校あり。當支部現在會員は拾五名にて内富山縣五名、石川縣八名福井縣貳名である。

會員は少數にて各々遠隔の地に在る爲會合の機會少い故に會員諸君の消息も甚だ不充分なれど下記御下命の責は果した次第である、

富山縣より云へば丸山俊一郎氏（蠶一）は水見農林學校長代理として敏腕を振つて居られたところ本春入善農學校に御轉任あり目下家事都合にて歸郷されてゐる、次に荊田恭一氏（蠶三）は福野農學校に御就任以來多年實業教育に御奮闘あり今や押しも押されもせぬ重要な地位にあり過般高等官に御昇進ありしも蓋し當然の次第である。川村吉太郎氏（蠶九）は上市農學校養蠶主任として努力されてゐる。高山裕氏（蠶一三）は小杉農業公民學校に御健闘中。本年に入り市村弘氏（紡一五）を富山市の第一ラミー紡績株式會社に迎へた同社は近來業績順に擧つて居る由である故に同氏の將來も亦大いに有望なりと思はれる。

次に石川縣に於ては登坂忠吉氏（蠶三）は大正八年新潟縣東蒲原郡農業技手より御轉任。大正十四年四月迄金澤市の本所勤務の所目下石川縣蠶業取締所小松支所長として敏腕を振つて居られる。會山直高氏（蠶四）は大正拾一年に現青森縣技師の後を承けて來任あり、着任早々貧弱なる桑園と蠶室の改善に着眼鋭意努力を續けられ其の効空からず荒廢せる當時の桑園の改植斷行をなすと共に一大擴張を行ひ面目を一新し且つ又近く蠶室を見事なる二階建最新式のものに改造される等常に孜々として生徒の薰陶に餘念なく、實業教育振興上慶すべき次第である。

淺井春夫氏（糸八）は石川縣生絲検査所在任既に滿三ヶ年である。是所長は縣立朝鮮織物検査所長兼務の爲め主力を其の方に奪はれる關係上生糸検査所内事務は殆ど淺井氏の双肩に在り、目下廳舎新築問題持ち上り實現可能性充分あるは君の手腕に負ふ所甚大なりと思はれる。安嶋義久氏（蠶九）は本年一月長野縣下高井郡農會より來任、農林課蠶糸係首席技手として獎勵及取締事務に執筆されてゐる。大なる抱負經綸を以つて着々石川縣の蠶糸業の開發に努力されてゐる。次に内地の羽二重の産地として有名なる大聖寺町の一角に不二絹製織會社として本邦第一なる日本絹織株式會社の紡績工場在り、同工場に在住する者は、藤澤千蔭氏（糸六）黒田誠一郎氏（糸八）本田圭吉氏（紡六）の諸兄及び小輩

の四名である諸兄は同工場有数の少壯技術家にして或は品質の改良に或は能率の増進に孜孜として活動せられ遺憾なく上田健兒の本領を發揮されてゐる、同工場は毎夏母校紡績科の實習生を迎へ母校との關係日に親密である。

福井縣には縣廳勸業課に三好彌一氏(糸八)有り同縣の蠶糸業は近年愈々勃興の機運に向ひつゝある故同氏の將來の發展期して待つべきものあるべし。野口新太郎氏(紡二)は客年健康を害せられ日本絹織株式會社を辭せられ昨冬福井縣生糸検査所に赴任された。福井縣は著名の生糸消費地にて移入する多額の生糸も大部分生糸検査所の手を経て機業家に使用さる状態なる故同氏の責任亦重大なものである。多年實業界に於て鍊磨されたる手腕を振ふべき好箇の地位ならんと思はれる。以上 (三・一〇・二〇遠藤生)

北 奥 支 部

昨年十一月當支部の創立を見てから會員の移動は次の通りである。

北海道廳蠶業取締所絹村貢氏は三月山梨縣廳蠶業取締所に、青森縣三本木農學校越智岩平氏は嶋根縣松江農學校に轉じその後任として十五回卒業の鈴木雄七君が赴任せられた。

九月二十七日北海道農事試験場に於いて蠶業試験場舊福嶋支場管内蠶業技術官會議のあつたのを機會に青森縣から高須兵司氏佐藤良太郎氏出張し札幌市にて支部有志懇談會を催し大いに舊情を温めた。

南 信 支 部

本年度の當支部總會は龍川會員諸君のお骨折で四月七日飯田町に開かれました本部より針塚名譽會長林理事の御兩名わざわざ御來會下して光彩を添へて戴いたことを深く感謝する次第であります。會長より學校の近況詳しく承はり又お互の懷舊談に花が咲き兄弟の様な又親子の様な打ち解けた集りをなすことを得たことを喜びます。

次の日は龍川會諸君の幹旋で飯田町より舟で下り天龍峽を探勝致しました。同行針塚校長林教授を始め龍川會員諸君それに山本君三輪君うららかな春日和で舟遊には申分なし水入らずで四方山の話に興じ所謂しぶきをあびて天龍峽に至り

景を賞しつゝ龍峽亭にて晝食を取り打ちつくりいで話に身が入り時のうつるも知らずでした、やがて三時の電車で別れをおしみつゝ各々歸途に着きました。彼様な會合こそほんとうに親睦を厚うることが出来ることと思ひます。龍川會員諸君の勞を多謝する次第であります。

鷗友會では五月三日縣工場課主催で講演會を岡谷で開かれた時各地より聽講に參られた同窓會員諸君がありましたを機會として晚餐會を開きました處種々有益な話が出て緊張した一夕を過ごすことが出来ました。それで申し合せて三日には彼様な會合を月々することに致しました會場は平野村下濱「みゆき」午後六時からです諏訪へ同日御立寄の同窓諸君は是非御都合して御出席を願ひます毎會十五六人は集つて居ります。今迄も度々各所支部の方々が御來會下さいました十月二十九日針塚校長先生の御來諷を好機として秋季例會を開催多數出席されて盛會でした。

安筑會も十一月四日穂高町で例會を開く豫定同日は農産物品評會菊花展覽會が山本君の學校で開催の由賑かのことゝ存じます。

會員の移動が生じましたが、これは他日に譲り以上近況御報知致します。(三、一〇、三一、支部長)

北 信 支 部 便 り

北信即長野市、上田市、上水内、下水内、上高井、下高井、更級、埴科、小縣、南佐久、北佐久の二市九郡を區域とする當支部は在田各位の幹旋によつて昨昭和二年十月三十日更級郡上山田溫泉龜屋旅館に呱聲を擧げ以來既に一ケ年間に經過したのである。今創立以來今日迄の消息を記録して後日に残し度いと思ふ。

1、創立總會の開催

當日の出席者は非常に多く針塚會長外五十九名の多きに達し其の盛況亦言語に絶するの感があつた。

浦生氏發起人一同を代表し開會の挨拶をなし終つて議長の推薦を會員に諮つたところ水嶋氏の發言に依り滿場一致を以て浦生氏を議長に推薦した。

次で針塚校長先生の訓話あり、終つて直ちに議事に移つた。

創立總會の協議事項は次の如くであつた。

一、上田蠶絲専門學校同窓會北信支部規則制定の件

二、本支部役員選舉の件

三、本支部代議員選舉の件

四、本會代議員會に於ける協議事項

支部設置に關しては異議なきものと認め

一、支部規則を議題とし豫め廻付し置きたる案により逐條審議し各條原案通り可決、

二、三、本支部役員並に代議員選舉に關しては選舉の煩瑣を避け銓衡委員を擧げて是が選定を行ふこととし依て蒲生氏

左記數氏を推舉し議事の進行上次の四項を議した。

銓衡委員氏名(順序不同)

水 嶋君 倉 澤君 高 木君 林(貞)君 松 村君 大 石君 尾 見君

峯 村君 小林(茂)君 金 崎君 樋 口君 湯 淺君 大 池君

四、議長本會代議員會に於ける協議事項を擧げ一同に諮る。

一) 母校二十周年記念事業計畫の件

二) 雜誌改題の件

三) 雜誌の學術報告と雜報とに分ち發行する件

次で委員會に入り、一般會員は別室に休憩した。

更に正午過ぎ會食に移り、先づ銓衡委員松村氏の報告あり、本支部役員及代議員を滿場一致別紙記載の通り可決、

次で鶴田氏の支部長就任の挨拶あり、終つて直ちに宴會に移り各自の自己紹介をなし和氣霽々裡に午後四時散會した

◎上田蠶絲専門學校同窓會北信支部役員並代議員氏名

支部長	鶴田定平君	尾見祐八君	佐藤金六君	後藤宰一君
幹事	志田傳次郎君	齋藤菊雄君	緒方善之助君	金崎眞英君
	天田晉三郎君	南澤清君	土屋茂一郎君	北澤周一君
	永田平君	大石阜爾君	黒江文雄君	岸益吉君
評議員	水嶋由太郎君	中澤勝也君	栗林悅君	峰村眞一郎君
	湯淺長輝君	猪坂直一君	小山二郎君	
	峰村壽命君	小林茂雄君	飯島正胤君	岸勝彌君
代議員	中澤忠君			

2、其の後の一年

以上に依つて支部は確立し陣容全く整つた、是迄近い様でありながらも或る距離を感じざるを得なかつた御互は始めて完全に結付いたと云ふ喜を遺憾なく味つて幾度か痛快を叫んだのである、爾來年餘會員益々増加を告げ以て今日の隆盛を見るに及んだのは誠に慶賀に堪へない次第である、特に會員の活動いやが上にも目ざましきものあるは全く當支部の誇りたるを感せずには居られない、即松村浦生兄等が夫々數多の研究論文の發表によつて常に學界を震動せしめつゝあるを初めとし或は小林勳氏の空頭病原に對する新研究の如き或は久保田、齋藤、金崎兄等の實用的幾多研究發表の如き、高木、濱諸兄が蠶業行政上に投じつゝある偉大なる衝動の如き或は又水嶋由太郎君が多年政界に飛躍して既に長野市政上大建物井兄等が着々實業界に其の能を示しつゝあるが如き、或は又水嶋由太郎君が多年政界に飛躍して既に長野市政上大建物

たるが如き各種各様其の活動の方面こそ異れ挙げ來り記し來れば到底本紙面の許さざる處である。されど此の間只一つ思ひ起すだに吾人心膽をして戰慄せしむるが如き事實を報ぜねばならぬ悲しみがある。それは今春第二回總會を計畫せんとしつゝあつた四月二十一日と云ふ日崇敬欣慕措く能はざりし吾が樋口琢麿君が永久に明界を去られたことである。氏は母校に在りては本部主腦者として、又長野に來ては支部幹部として本會の爲め、同窓生の爲めに心身を捧げて働いてくれた偉人である。特に氏の業蹟は將に隆々として現はれ來り尙ほ氏によつてのみ解決の鍵の握られたりし山高き研究事項も今はあはれ殘されて君が墓標を圍んで如何ともなし難いのである、今は何事も約束事かと諦めては居るものゝ事毎に君在りまざばと思出されて女々しくも生前を偲ぶのみである。

3、現在會員

創立以來今日（昭和三年現在）迄に轉任其他によつて一三名を送り新に五名を迎へ茲に都合現在會員百十四名と云ふ大世帯になつたわけである。

4、第二總會の開催

昭和三年十月十四日午前十時より埴科郡戸倉村笹屋ホテルに於て當支部第二回總會を開催した當日出席されたものは四十五名の多きに上つた。

鶴田支部長開會を宣し併て経過報告を爲し更に議長推薦を諮り浦生氏の發言により満場一致鶴田氏を議長に推薦

左の順序に従ひ議事を進め

一 代議員改選

左の七名を詮衡委員に擧げ

高木三治 濱井壽夫

尾見祐八 永田平

峰村眞一郎 倉澤美徳
後藤宰一

代議員は次の四名と決定

岸 勝彌 高尾 歳次
小山 二郎 飯嶋 正胤

二、協議事項

(イ) 支部豫算及決算に關する件

金崎幹事説明可決

(ロ) 支部規則改正に關する件

北信支部規則第十一條を左の通改正したき旨鶴田氏説明可決

「第十一條 本支部は代議員會並に役員會出席に要する旅費を支給する事あるべし」

(ハ) 代議員會に提出すべき各支部よりの問題研究

山陰 北信 東海 山形 山陽 北奥 山梨 兵庫 近畿

以上九支部より來る十一月二十三日本部に於いて開催の代議員會に提出せる諸問題に關し各自腹藏なき意見を交換して
打切

(ニ) 其他、總會開催期日は毎年十月第一日曜日又は第二日曜日にすることに決定次回總會會場は下高井郡澁温泉と決
定

右終つて午後一時頃より懇親會に移り福引當て物各種競技等に各自大童となりて歡を儘し解散の頃は小春日和の影遠き
頃であつた。三、一、二〇鶴田記

支部の二つとも

本會報第十七號を發行する當時は、支部員數は本會員の全部で無く、十七%と云ふ本部直屬の同志を残して居つた。然るに今回は、海外在住の同志を除いて殆ど全員を網羅したわけであつて、まことに御同慶に堪へない次第である。支部長として種々御斡旋を願つて居る方々は次の如きである。

本會支部所在並ニ支部長

(昭和三年十一月現在)

支部名	支部長名	所	在	地
北 奥	高須兵司	青森縣蠶業試驗場		(青森縣七戸町)
山 形	森 干城	山形縣農事試驗場置賜分場		(山形縣東置賜郡宮内町)
福 嶋	田附卯一郎	福嶋縣立蠶業學校		(福嶋市外)
宮 城	本間直人	宮城縣立伊具農蠶學校		(宮城縣丸森町)
茨 城	中山鑑一	茨城縣立笠間農學校		(茨城縣笠間町)
兩 毛	織田 博	群馬縣工業試驗場		(前橋市)
東 京	唐澤藤藏	片倉製絲紡績株式會社		(東京市京橋區疊町)
神 奈 川	伊藤 競	時澤義三郎商店		(横濱市辨天通り)
新 潟	二宮九二二	自 宅		(新潟縣中浦原郡五泉町川瀬)
北 陸	遠藤友平	日本絹織株式會社		(石川縣江沼郡南鄉村)
山 梨	絹村 貢	山梨縣廳蠶絲課		(山梨縣甲府市)
北 信	鶴田定平	長野縣蠶業試驗場		(長野縣長野市岡田)

南	信	三輪	輔	長野縣立諏訪蠶絲學校	(長野縣諏訪郡平野村岡谷)
東	海	久保田	嘉一郎	東洋紡績名古屋絹絲工場	(名古屋市東區飯田町)
近	畿	加美	好男	自 宅	(京都市外伏見桃山日出住宅)
兵	庫	沖	瀧治	神戸市立生絲検査所	(神戸市濱邊通り)
山	陽	小川	保	自 宅	(廣嶋縣御調郡奧村綾目八七六)
山	陰	小野	正男	鳥取高等農業學校	(鳥取市)
四	國	波多野	千里	愛媛縣立南宇和實業學校	(愛媛縣南宇和郡御莊町)
北	九州	藤	勝四郎	福岡縣廳農林課	(福岡縣福岡市)
南	九州	福谷	朝太郎	熊本縣立熊本農業學校	(熊本縣熊本市)
朝	鮮	高橋	善吾	密陽農蠶學校	(朝鮮慶尙南道)

外 未設置 滿洲、支那、外國
 支部設置數 三三二 代議員數 三四